

(様式第 10)

久大病 (管) 第 35 号
平成 26 年 10 月 3 日

九州厚生局長 殿

学校法人 久留米大学
理事長 神代 正道 (印)

久留米大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法 (昭和 23 年法律第 205 号) 第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 25 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒830-0011 福岡県久留米市旭町67番地
氏 名	学校法人 久留米大学 理事長 神代 正道

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

久留米大学病院

3 所在の場所

〒830-0011 福岡県久留米市旭町67番地	電話 (0942) 35-3311
----------------------------	-------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	① 有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等 1 神経内科 2 呼吸器内科 3 消化器内科 4 心臓・血管内科	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	⑦ ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 1 呼吸器外科 2 心臓血管外科 3 消化器外科 4 形成外科 5 小児外科	
診療実績	

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科	②小児科	③整形外科	④脳神経外科	⑤皮膚科	⑥泌尿器科	7産婦人科
⑧産科	⑨婦人科	⑩眼科	⑪耳鼻咽喉科	⑫放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科		⑮麻酔科	⑯救急科			

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	⑦ ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1 歯科口腔外科 2 小児歯科 3 矯正歯科	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 リハビリテーション科 2 病理診断科 3 美容外科

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精 神	感染症	結 核	療 養	一 般	合 計
53床	床	床	床	1041床	1094床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成 26 年 10 月 1 日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	521人	人	521 人	看 護 補 助 者	90 人	診療エックス線技師	人
歯 科 医 師	11人	人	11 人	理 学 療 法 士	21 人	臨床検査技師	76 人
薬 剤 師	58人	人	58 人	作 業 療 法 士	10 人	衛生検査技師	人
保 健 師	人	人	人	視 能 訓 練 士	7 人	そ の 他	人
助 産 師	33人	人	33 人	義 肢 装 具 士	人	あん摩マッサージ指圧師	人
看 護 師	987人	6.4人	993.4 人	臨床工学技士	19 人	医療社会事業従事者	13 人
准 看 護 師	5人	人	5人	栄 養 士	1 人	その他の技術員	17 人
歯科衛生士	3人	0.5人	3.5 人	歯 科 技 工 士	2 人	事 務 職 員	104 人
管理栄養士	12 人	人	12 人	診療放射線技師	51人	その他の職員	51 人

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成 26 年 10 月 1 日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	13 人	眼 科 専 門 医	12 人
外 科 専 門 医	58 人	耳鼻咽喉科専門医	9 人
精 神 科 専 門 医	13 人	放射線科専門医	21 人
小 児 科 専 門 医	31 人	脳神経外科専門医	14 人
皮 膚 科 専 門 医	7 人	整形外科専門医	13 人
泌尿器科専門医	8 人	麻 酔 科 専 門 医	17 人
産婦人科専門医	17 人	救 急 科 専 門 医	12 人
		合 計	245 人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 1 位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1 日当たり平均入院患者数	794.2人	19.4人	813.6 人
1 日当たり平均外来患者数	1745.6人	85.4人	1831 人
1 日当たり平均調剤数			2600.7 剤
必要医師数			186.55人
必要歯科医師数			8人
必要薬剤師数			28人
必要（准）看護師数			612人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	1699.3m ²	鉄筋コンクリート	病床数	62床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 483.43m ² [移動式の場合] 台数 台		病床数	41床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 79.8m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	468.78m ²		※別紙のとおり			
細菌検査室	198.36m ²		※別紙のとおり			
病理検査室	108.98m ²		※別紙のとおり			
病理解剖室	56.53 m ²		※別紙のとおり			
研究室	17744.17m ²		パソコン、複写機			
講義室	1612.50m ²		室数 17室	収容定員 1153人		
図書室	2838.18 m ²		室数 室	蔵書数 271,043冊程度		

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成25年4月1日～平成26年3月31日	
紹介率	78.9%	逆紹介率	74.2%
算出根拠	A: 紹介患者の数		16,868人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		17,344人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		1,562人
	D: 初診の患者の数		23,356人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
骨髄細胞移植による血管新生療法	1人
難治性眼疾患に対する羊膜移植術	5人
自己腫瘍(組織)を用いた活性化リンパ球移入療法	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
十二種類の腫瘍抗原ペプチドによるテーラーメイドのがんワクチン療法 ホルモン不応性再燃前立腺がん(ドセタキセルの投与が困難な者であって、HLA-A24が陽性であるものに係るものに限る。)	6人
経胎盤的抗不整脈薬投与療法 胎児頻脈性不整脈(胎児の心拍数が毎分百八十以上で持続する心房粗動又は上室性頻拍に限る。)	人
神経症状を呈する脳放射線壊死に対する核医学診断及びベバシズマブ静脈内投与療法 神経症状を呈する脳放射線壊死(脳腫瘍又は隣接する組織の腫瘍に対する放射線治療後のものに限る。)	人
術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法 原発性乳がん(エストロゲン受容体が陽性であって、HER2が陰性のものに限る。)	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	L-CAP	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 慢性炎症性疾患のリンパ球除去を行っている。			
医療技術名	G-CAP	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 慢性炎症性疾患の顆粒球除去を行っている。			
医療技術名	血漿交換	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 各種薬剤抵抗性の自己免疫疾患に対して行っている。			
医療技術名	脳保護を目的とした低体温療法	取扱患者数	38人
当該医療技術の概要 低体温にすることで心肺停止蘇生後や重症頭部外傷などで脳保護をねらう医療技術。導入～回復期まで呼吸器管理・循環管理を要す。			
医療技術名	ハイブリッド訓練システムによる非アルコール性脂肪性肝障害の治療	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 ハイブリッド訓練システムは、宇宙ステーション滞在にもなう筋萎縮予防を目的に開発された電気刺激と自発運動による新規運動療法である。当科では、食事療法や運動療法を3ヶ月以上指導したにも関わらず肝障害の改善が認められない非アルコール性脂肪性肝障害患者に対して、ハイブリッド訓練システムを用いた治療を行っている。これまでに12症例に実施し、明らかな有害事象は認められていない。また、血清ALT値やIL-6値の低下、インスリン抵抗性や脂肪肝の改善といった有効性が確認されている(J Gastroenterol. 2011;46:746-57)。			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾 患 名	取扱患者数	疾 患 名	取扱患者数
・ベーチェット病	68人	・膿疱性乾癬	2人
・多発性硬化症	38人	・広範脊柱管狭窄症	1人
・重症筋無力症	71人	・原発性胆汁性肝硬変	48人
・全身性エリテマトーデス	136人	・重症急性膵炎	0人
・スモン	0人	・特発性大腿骨頭壊死症	10人
・再生不良性貧血	27人	・混合性結合組織病	24人
・サルコイドーシス	79人	・原発性免疫不全症候群	4人
・筋萎縮性側索硬化症	10人	・特発性間質性肺炎	12人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	121人	・網膜色素変性症	1人
・特発性血小板減少性紫斑病	48人	・プリオン病	1人
・結節性動脈周囲炎	24人	・肺動脈性肺高血圧症	10人
・潰瘍性大腸炎	185人	・神経線維腫症	9人
・大動脈炎症候群	26人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	7人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0人
・天疱瘡	29人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	2人
・脊髄小脳変性症	34人	・ライソゾーム病	6人
・クローン病	69人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	9人	・脊髄性筋萎縮症	0人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	73人	・球脊髄性筋萎縮症	2人
・アミロイドーシス	6人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	3人
・後縦靱帯骨化症	44人	・肥大型心筋症	4人
・ハンチントン病	0人	・拘束型心筋症	1人
・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	15人	・ミトコンドリア病	9人
・ウェゲナー肉芽腫症	6人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	0人
・特発性拡張型(うつ血型)心筋症	13人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	9人	・黄色靱帯骨化症	1人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	1人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	40人

(注)「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
地域歯科診療支援病院歯科初診料	救急搬送患者地域連携受入加算
歯科外来診療環境体制加算	精神科救急搬送患者地域連携紹介加算
歯科診療特別対応連携加算	病棟薬剤業務実施加算
特定機能病院7対1入院基本料	データ提出加算2
臨床研修病院入院診療加算	救命救急入院料1
救急医療管理加算	救命救急入院料4
超急性期脳卒中加算	特定集中治療室管理料3
妊産婦緊急搬送入院加算	ハイケアユニット入院医療管理料1
診療録管理体制加算2	総合周産期特定集中治療室管理料(母体・胎児)・(新生児)
急性期看護補助体制加算	新生児治療回復室入院医療管理料
療養環境加算	小児入院医療管理料2
重症者等療養環境特別加算	緩和ケア病棟入院料
無菌治療室管理加算1・2	精神科急性期治療病棟入院料1
緩和ケア診療加算	・
精神科身体合併症管理加算	・
摂食障害入院医療管理加算	・
がん診療連携拠点病院加算	・
栄養サポートチーム加算	・
医療安全対策加算1	・
感染防止対策加算1	・
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
ハイリスク妊娠管理加算	・
ハイリスク分娩管理加算	・
退院調整加算	・
新生児特定集中治療室退院調整加算	・
救急搬送患者地域連携紹介加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
高度難聴指導管理料	時間内歩行試験
糖尿病合併症管理料	胎児心エコー法
がん性疼痛緩和指導管理料	ヘッドアップティルト試験
がん患者カウンセリング料1・2・3	人工膵臓
移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	皮下連続式グルコース測定
糖尿病透析予防指導管理料	長期継続頭蓋内脳波検査
外来リハビリテーション診療料	神経学的検査
外来放射線照射診療料	補聴器適合検査
地域連携診療計画策定料	小児食物アレルギー負荷検査
がん治療連携計画策定料	内服・点滴誘発試験
がん治療連携管理料	センチネルリンパ節生検(単独)
認知症専門診断管理料	CT透視下気管支鏡検査加算
肝炎インターフェロン治療計画料	画像診断管理加算1
薬剤管理指導料	遠隔画像診断
医療機器安全管理料1	ポジトロン断層撮影
医療機器安全管理料2	ポジトロン断層・コンピュータ断層複合撮影
医療機器安全管理料(歯科)	CT撮影及びMRI撮影
歯科治療総合医療管理料	冠動脈CT撮影加算
持続血糖測定器加算	大腸CT撮影加算
造血器腫瘍遺伝子検査	心臓MRI撮影加算
HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	抗悪性腫瘍剤処方管理加算
検体検査管理加算(Ⅰ)	外来化学療法加算1
検体検査管理加算(Ⅳ)	無菌製剤処理料
遺伝カウンセリング加算	心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
植込型心電図検査	運動器リハビリテーション料(Ⅰ)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	乳がんセンチネルリンパ節加算2
がん患者リハビリテーション料	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
歯科口腔リハビリテーション料2	経皮的冠動脈形成術
精神科作業療法	経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
精神科ショート・ケア「大規模なもの」	経皮的冠動脈ステント留置術
精神科デイ・ケア「大規模なもの」	経皮的大動脈弁置換術
抗精神病特定薬剤治療指導管理料	経皮的中隔心筋焼灼術
医療保護入院等診療料	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
エタノールの局所注入(甲状腺)	植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
透析液水質確保加算1	両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
一酸化窒素吸入療法	植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術
CAD/CAM冠	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
歯科技工加算	大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	補助人工心臓
組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)	植込型補助人工心臓(非拍動流型)
骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	経皮的大動脈遮断術
頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)	ダメージコントロール手術
脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術	体外衝撃波胆石破碎術
脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	腹腔鏡下肝切除術
羊膜移植術	生体部分肝移植術
緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
網膜再建術	体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	同種死体腎移植術
上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)	生体腎移植術
上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)	膀胱水圧拡張術

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	
胎児胸腔・羊水腔シャント術	
医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術	
輸血管理料 I	
自己生体組織接着剤作成術	
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	
歯周組織再生誘導手術	
広範囲顎骨支持型装置埋入手術	
麻酔管理料 I	
放射線治療専任加算	
外来放射線治療加算	
高エネルギー放射線療法	
1回線量増加加算	
強度変調放射線治療(IMRT)	
画像誘導放射線治療(IGRT)	
定位放射線治療	
保険医療機関間の連携による病理診断	
病理診断管理加算2	
クラウン・ブリッジ維持管理料	
歯科矯正診断料	
顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。)の手術前後における歯科矯正に係るもの)	
入院時食事療養(I)	
心臓ペースメーカー指導管理料(植込式除細動器移行加算)	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	
羊膜移植術	

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	6回
剖 検 の 状 況	剖検症例数 38 例 / 剖検率 9.77%

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補	委
※別紙1のとおり				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	

計

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金 額	補助元又は委託元	
新規サイトカインIL-38の炎症性肺疾患における役割の解明と新規治療薬	星野 友昭	呼吸器・神経・膠原病内科	1,500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
パーキンソン病の画像バイオマーカーの開発	谷脇 考恭	呼吸器・神経・膠原病内科	600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
「自己炎症」疾患の病態解析を利用した「自然炎症」における分子基盤の解明	井田 弘明	呼吸器・神経・膠原病内科	3,600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
関節症における骨融解・骨新生を誘導する新しい分子の同定とiPS細胞による病態解析	井田 弘明	呼吸器・神経・膠原病内科	1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
プロテアソーム活性低下に起因する自己炎症病態の解明	井田 弘明	呼吸器・神経・膠原病内科	100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
COPD、うつ病および睡眠障害併存例の疫学と全身性炎症の関与に関する研究	川山 智隆	呼吸器・神経・膠原病内科	800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
間質性肺炎と薬剤性肺障害における新規バイオマーカーの開発	岡元 昌樹	呼吸器・神経・膠原病内科	1,600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
非小細胞肺癌におけるc-METを標的とした新規免疫療法の開発	東 公一	呼吸器・神経・膠原病内科	1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
Mast cellによる肺線維化促進メカニズム解析と治療への応用	海江田 信二郎	呼吸器・神経・膠原病内科	1,600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
安静時機能的MRIでの記憶表象形成過程測定によるアルツハイマー病早期診断法の開発	山下 謙一郎	呼吸器・神経・膠原病内科	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
呼吸不全に関する調査研究	星野 友昭	呼吸器・神経・膠原病内科	540,000	補委	厚生労働省
自己炎症疾患とその類縁疾患に対する新規診療基盤の確立	井田 弘明	呼吸器・神経・膠原病内科	1,500,000	補委	厚生労働省
地域蓄積・収集した稀少疾患の系統的原因究明	井田 弘明	呼吸器・神経・膠原病内科	1,000,000	補委	厚生労働省
急性感染も含めた肝炎ウイルス感染状況・長期経過と治療導入対策に関する研究	鳥村 拓司	消化器内科	1,000,000	補委	厚生労働省
C型肝炎を含む代謝関連肝がんの病態解明及び治療法の開発等に関する研究	川口 巧	消化器内科	1,000,000	補委	厚生労働省
B型肝炎ウイルスe抗体陽性無症候性キャリアの長期予後に関する検討	佐田通夫	消化器内科	3,000,000	補委	厚生労働省
肝細胞癌の腫瘍血管に特異的なマイクロRNAを標的とした血管新生抑制療法の開発	鳥村拓司	消化器内科	2,210,000	補委	文部科学省
潰瘍性大腸炎合併大腸癌の早期発見のための分子イメージングの開発	光山 慶一	消化器内科	1,500,000	補委	文部科学省
ヒトTCF-4アイソフォームによる造腫瘍能獲得は低酸素依存性である	古賀 浩徳	消化器内科	1,040,000	補委	文部科学省
炎症性腸疾患および炎症性発癌に対する新規デリバリーシステムを用いた治療法の開発	竹田津 英稔	消化器内科	1,820,000	補委	文部科学省
CD34陽性細胞移植による肝硬変症に対する効率的な肝再生促進法の開発	中村 徹	消化器内科	910,000	補委	文部科学省
治療標的あるいはバイオマーカーとしてのCGRPの可能性	山崎 博	消化器内科	1,950,000	補委	文部科学省
非B非C肝がんの新規危険因子同定：GWASとデータマイニングによる網羅的解析	佐田 通夫	消化器内科	1,950,000	補委	文部科学省
細胞系譜の追跡による大動脈解離の病態解明	青木 浩樹	循環器病研究所	1,430,000	補委	文部科学省：科学研究費助成事業
大動脈解離の分子メカニズム：細胞間相互作用による大動脈壁強度制御機構の解明	青木 浩樹	循環器病研究所	5,980,000	補委	文部科学省：科学研究費助成事業
血中フェチリンA高値は、脳梗塞発症の危険因子であるかの縦断研究	足達 寿	地域医療連携講座	910,000	補委	文部科学省：科学研究費助成事業
心筋障害ストレスに対する心筋保護機構：SOCSによる細胞内シグナル調節の視点から	安川 秀雄	循環器病センター	1,430,000	補委	文部科学省：科学研究費助成事業
老化指標のDHEASと認知機能、睡眠との疫学調査	榎本 美佳	心臓・血管内科	780,000	補委	文部科学省：科学研究費助成事業

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金 額	補助元又は委託元
FDG-PET/CTを用いた冠動脈ステント留置部位の分子病態の解明	田原 宣広	心臓・血管内科	1,300,000	補委 文部科学省:科学研究費助成事業
心血管病の予防としてのレジスタンス運動プログラムの開発	吉田 典子	健康・スポーツ科学センター	2,080,000	補委 文部科学省:科学研究費助成事業
血圧変動による高血圧性臓器障害増悪のkey molecule解明	甲斐 久史	心臓・血管内科	1,560,000	補委 文部科学省:科学研究費助成事業
血管内皮前駆細胞の投与組織環境改善で治療効果の増強を図る次世代型血管新生療法	佐々木 健一郎	循環器病研究所	1,820,000	補委 文部科学省:科学研究費助成事業
血小板由来膜小胞体による血管内皮前駆細胞機能増強効果を応用した血管新生療法の開発	大塚 昌紀	心臓・血管内科	1,040,000	補委 文部科学省:科学研究費助成事業
血管内皮前駆細胞の機能強化と磁気誘導による次世代型血管新生療法の開発	仲吉 孝晴	心臓・血管内科	780,000	補委 文部科学省:科学研究費助成事業
大動脈解離の分子病態メカニズム解明:IL-6によるマクロファージ分化制御	大野 聡子	心臓・血管内科	2,040,000	補委 文部科学省:科学研究費助成事業
大動脈瘤における血管修復機構の解明～血管平滑筋に着目した治療法の開発～	平方 佐季	心臓・血管内科	1,690,000	補委 文部科学省:科学研究費助成事業
心筋虚血再灌流障害における SOCS3欠損によるシグナル活性とその役割及び有効性	永田 隆信	心臓・血管内科	2,080,000	補委 文部科学省:科学研究費助成事業
下肢虚血組織下の血管新生における、骨格筋細胞の役割	大島 英樹	心臓・血管内科	2,080,000	補委 文部科学省:科学研究費助成事業
心筋梗塞後の心筋リモデリングにおける炎症性サイトカインIL17の役割	佐々木(南) 知子	心臓・血管内科	2,080,000	補委 文部科学省:科学研究費助成事業
高感度トロポニンTは心房細動新規発症を予測するか?	姉川 敬裕	循環器病センター	2,210,000	補委 文部科学省:科学研究費助成事業
閉経における慢性腎臓病が血管石灰化を助長する分子メカニズムの解明	打和 大幹	心臓・血管内科	2,080,000	補委 文部科学省:科学研究費助成事業
慢性腎不全の血管石灰化と内皮機能異常の共通制御の機構解明と治療標的分子の同定	梶本 英美	心臓・血管内科	2,470,000	補委 文部科学省:科学研究費助成事業
地域住民における食事由来の多価不飽和脂肪酸と腎障害発症・進展に関する疫学的研究	深水 亜子	心臓・血管内科	1,950,000	補委 文部科学省:科学研究費助成事業
大動脈瘤の分子病態におけるIL-6の意義解明と大動脈瘤安定化・治療法の開発	西原 通秀	心臓・血管内科	2,210,000	補委 文部科学省:科学研究費助成事業
大動脈瘤におけるB細胞機能の解明と次世代の診断治療法開発	古荘 文	心臓・血管内科	2,080,000	補委 文部科学省:科学研究費助成事業
大動脈解離の病態解明による革新的な薬物療法の開発	西田 憲史	心臓・血管内科	2,080,000	補委 文部科学省:科学研究費助成事業
梗塞後心筋障害における腎交感神経の役割の検討	大場 豊治	心臓・血管内科	2,080,000	補委 文部科学省:科学研究費助成事業
心筋梗塞における心筋細胞保護の分子機構解析と治療	馬渡 一寿	心臓・血管内科	2,080,000	補委 文部科学省:科学研究費助成事業
血清フェチリンA値と頸動脈狭窄の前向き疫学研究	大淵 綾	心臓・血管内科	1,300,000	補委 文部科学省:科学研究費助成事業
疫学研究における10年間の心電図変化と生活習慣病予防	中村 佐知子	心臓・血管内科	2,080,000	補委 文部科学省:科学研究費助成事業
血漿アルドステロン高値はメタボリック症候群進展の予知因子である	野原 夢	心臓・血管内科	2,080,000	補委 文部科学省:科学研究費助成事業
炎症性動脈瘤形成症候群の新規診断法の確立に関する研究	青木 浩樹	循環器病研究所	1,000,000	補委 厚生労働科学研究費補助金
南三陸町民公開講座「健康の維持を目指して」	福本 義弘	心臓・血管内科	700,000	補委 公益財団法人長寿科学振興財団
慢性血栓塞栓性肺高血圧症に対する経皮的肺動脈形成術前後での右心室代謝の機能的評価	福本 義弘	心臓・血管内科	1,000,000	補委 一般財団法人 医療・介護・教育研究財団
冠動脈疾患における抗血小板剤併用療法は頭蓋内微小出血を増加させるか	甲斐 久史	心臓・血管内科	600,000	補委 一般財団法人 医療・介護・教育研究財団
動脈弾性板の形成・破壊の分子機構とその動脈疾患における役割	青木 浩樹	循環器病研究所	9,000,000	補委 公益財団法人 車両競技公益資金記念財団

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金 額	補助元又は委託元	
大動脈解離の分子病態メカニズム解明:マクロファージ分化制御を応用した診断・治療法の開発	大野 聡子	心臓・血管内科	1,000,000	補委	石橋学術研究助成金
急性腎障害における非対称性ジメチルアルギニンの生命予後、腎予後に果たす役割の検討	上田 誠二	腎臓内科	1,040,000	補委	日本学術振興会
AGEsのエピジェネティック異常を介した糖尿病性腎症発症機序についての検討	甲斐田 裕介	腎臓内科	1,560,000	補委	日本学術振興会
母体環境が新生仔の腎障害に与える影響についての検討～AGEs-アプタマーの効果～	深水 圭	腎臓内科	1,800,000	補委	日本学術振興会
睡眠医療及び睡眠研究用プラットフォームの構築に関する研究	内村直尚	神経精神医学	500,000	補委	精神・神経疾患研究開発費
身体疾患を合併する精神疾患患者の診療の質の向上に資する研究	内村直尚	神経精神医学	1,000,000	補委	厚生労働省科学研究費補助金 :障害者対策総合研究事業 (伊藤弘人 研)
内科診療所受診者における睡眠とうつの関連に関する研究 (うつと睡眠に関する追跡調査)	内村直尚	神経精神医学	4,997,160	補委	静岡県受託研究費
NIRSを用いたうつ病復職支援プログラムにおける精神生理学的評価の有用性	小路純央	神経精神医学	500,000	補委	文部科学省科学研究費補助金 :基盤研究(C)
外傷性ストレスからの回復過程を予測する客観的指標の探索	大江美佐里	神経精神医学	1,500,000	補委	文部科学省科学研究費補助金 :基盤研究(C)
外傷ストレスからの回復過程を予測する客観的指標の探索	大江美佐里	神経精神医学	500,000	補委	石橋学術振興基金助成金
児童虐待・ネグレクト被害に関する支援ガイドラインの作成と普及に関する研究	大江美佐里	神経精神医学	300,000	補委	公益信託今井きみ記念ストレス関連疾患研究助成
内科診療所におけるうつ病診療ガイドラインの作成	藤枝 恵	神経精神医学	1,993,750	補委	文部科学省科学研究費補助金 :若手研究(B)
内科診療所におけるうつ病診療ガイドラインの作成	藤枝 恵	神経精神医学	500,000	補委	石橋学術振興基金助成金
解離の多次元アセスメントと心理援助法の開発	舩田亮太	神経精神医学	800,000	補委	文部科学省科学研究費補助金 :若手研究(B)
心的外傷体験を有するクライアントへの認知行動的アプローチ —心理教育の観点から—	舩田亮太	神経精神医学	300,000	補委	(財)メンタルヘルス岡本記念財団:研究助成金
レット症候群の早期診断と治療をめざした総合的研究	松石豊次郎	小児科学	4,000,000	補委	厚生労働省
希少難治性てんかんのレジストリ構築による総合的研究	松石豊次郎	小児科学	400,000	補委	厚生労働省
胎児期からのハイリスク児の臨床観察による発達障害理解と包括的診断治療法構築	松石豊次郎	小児科学	128,050,000	補委	文部科学省科学研究費
Rett症候群の革新病態マーカーと新規治療法開発の臨床的・基礎的研究	松石豊次郎	小児科学	1560000	補委	文部科学省科学研究費
発達障害の神経科学的基盤の解明と治療法開発に関する研究	山下裕史朗	小児科学	1,200,000	補委	厚生労働省
発達障害児を持つ家族の支援ニーズに基づいたレジリエンス向上に関する研究	山下裕史朗	小児科学	400,000	補委	厚生労働省
アウトカム評価とバイオマーカー指標に基づく子どもの心の診療システムの構築	永光信一郎	小児科	1,400,000	補委	文部科学省:科学研究費基金(基盤研究(C))
小児摂食障害におけるアウトカム尺度の開発に関する研究 —学校保健における思春期やせの早期発見システム構築、および発症要因と予後因子の抽出に向けて—	永光信一郎	小児科	400,000	補委	厚生労働省科学研究費補助金 (成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業研究事業)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金 額	補助元又は委託元
生体分子イメージングを用いた川崎病血管炎の解析	須田憲治	小児科	1,400,000	(補委) 日本学術振興会
肺動脈狭窄に対するCheatham Platinum (PC) スtent留置の有効性と安全性に関する研究	須田憲治	小児科	500,000	(補委) 日本医師会治験促進センター(治験推進研究事業)
(難治性疾患克服研究事業)「炎症性動脈瘤形成症候群の新規診断バイオマーカーの開発と診断基準の作成」(H23-難治一般-056)(研究分担者)	須田憲治	小児科	200,000	(補委) 厚生労働省
胎児不整脈に対する胎児治療の臨床研究	前野泰樹	小児科	1,500,000	(補委) 厚生労働科学研究費補助金医療技術実用化総合研究事業
非侵襲持続モニターによる新生児概日リズムの集学的解明:生後空白の2か月の謎に迫る	岩田欧介	小児科	7,000,000	(補委) 文部科学省新学術領域公募研究 構成論の発達科学
極低出生体重児の超音波検査による早期栄養確立	木下正啓	小児科	2,600,000	(補委) 文部科学省科学研究費若手研究B
非侵襲持続モニターによる新生児概日リズムの集学的解明:生後空白の2か月の謎に迫る	岩田欧介	小児科	600,000	(補委) 石橋財団研究奨励金
「唾液検体と体動記録による睡眠リズム獲得過程の徹底解明:科学的発達支援への挑戦」	岩田幸子	小児科	900,000	(補委) 文部科学省科学研究費基盤研究C
哺乳サイクルが新生児のサーカディアンリズム形成とその後の発達に与える影響	岩田幸子	小児科	600,000	(補委) 森永奨励金
ミトコンドリア病に合併する高乳酸血症に対するピルビン酸ナトリウム治療法の開発研究-試薬からの希少疾病治療薬開発の試み-	古賀 靖敏	小児科	251,760,000	(補委) 厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患等克服研究事業)
ミトコンドリア病の診断と治療に関する調査研究	古賀 靖敏	小児科	1,000,000	(補委) 厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患等克服研究事業)
ミトコンドリア脳筋症MELASの脳卒中様発作に対するタウリン療法の開発	古賀 靖敏	小児科	2,000,000	(補委) 厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患等克服研究事業)
ミトコンドリア病治療薬のための網羅的機能測定スクリーニングシステムの開発	古賀 靖敏	小児科	1,950,000	(補委) 文部科学省:科学研究費基金(基盤研究(C))
血漿FGF21はミトコンドリア病の臨床症状を反映できるか?	ハツ賀 秀一	小児科	1,040,000	(補委) 文部科学省:科学研究費基金(若手研究(B))
進行再発乳癌に対するテラーメイド型癌ペプチドワクチン開発研究	唐 宇飛	外科学	1,000,000	(補委) 文部科学省(科学研究費助成事業 基盤研究(C))
ミセルナノ粒子を使用したトリプルネガティブ乳癌治療に関する研究	岩熊伸高	外科学	1,000,000	(補委) 文部科学省(科学研究費助成事業 基盤研究(C))
高精度の分子遺伝学的評価による食道がん治療成績向上のための包括的研究	田中寿明	外科学	1,000,000	(補委) 文部科学省(科学研究費助成事業 基盤研究(B)分担)
手術手技の最適化による標準治療確率のための多施設共同研究	白水和雄	外科学	500,000	(補委) 独立行政法人国立がん研究センターがん研究開発費の研究事業
脊柱靱帯骨化症に関する調査研究	永田見生	整形外科	5,000,000	(補委) 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業
難病、頸椎後縦靱帯骨化症特異性タンパク質の発見とそのメカニズムの解明	永田見生	整形外科	700,000	(補委) 文部科学省研究費補助金基盤研究(C)
新規ペプチドOBAPの生理活性の検討	福嶋信広	整形外科	800,000	(補委) 文部科学省研究費補助金基盤研究(C)
世界初、幹細胞由来靱帯組織作製成功による靱帯骨化ブロック剤開発研究	津留美智代	整形外科	800,000	(補委) 文部科学省研究費補助金基盤研究(C)
高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のための研究	平岡弘二	整形外科	240,000	(補委) 厚生労働科学研究費補助金がん臨床研究事業
軟部組織腫瘍発生・増殖に影響するマスト細胞の機能検索	山内 俊彦	形成外科・顎顔面外科	780,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費:基盤研究(C)
脳動脈壁検体プロテオミクス解析を中心としたもやもや病の病因解析研究	森岡 基浩	脳神経外科	1,300,000	(補委) 文部科学省科学研究費:基盤研究(C)
直接血管吻合によらない脳血流改善治療法の開発	森岡 基浩	脳神経外科	65,000	(補委) 文部科学省科学研究費:基盤研究(C)(大森雄樹班)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金 額	補助元又は委託元	
標準治療抵抗性神経膠芽腫に対するペプチドワクチンの第Ⅲ相臨床研究	寺崎 瑞彦	脳神経外科	3,000,000	補委	厚生労働省科学研究費補助金(伊東恭悟班)
悪性グリオーマに対するミュータノーム・データベース構築	寺崎 瑞彦	脳神経外科	2,080,000	補委	文部科学省科学研究費:基盤研究(C)
脳梗塞integrated surgical cell therapyの確立	折戸 公彦	脳神経外科	1,820,000	補委	文部科学省科学研究費:基盤研究(C)
非侵襲的手法を用いた重症心身障児における小腸内細菌増殖の病態解明	深堀 優	小児外科	1,560,000	補委	文部科学省:科学研究費補助金:基盤研究(C)
各種自己抗体を介したラミニン・インテグリン接着機構障害による水疱形成機序の解析	橋本 隆	皮膚科	1,480,000	補委	文部科学省科学研究費(挑戦的萌芽研究)
皮膚の遺伝関連性希少難治性疾患群の網羅的研究	橋本 隆	皮膚科	60,000,000	補委	厚生労働省科学研究費補助金(難治性疾患等克服研究事業):橋本隆班
稀少難治性皮膚疾患に関する調査研究	橋本 隆	皮膚科	4,000,000	補委	厚生労働省科学研究費補助金(難治性疾患等克服研究事業):岩月啓氏班
ヒトMC1Rシグナルの次世代シーケンシングとChIPアレイによる解析	古村 南夫	皮膚科	3,050,000	補委	文部科学省科学研究費(基盤研究C)
本邦ジューリング疱疹状皮膚炎の血清学的・遺伝学的研究	大畑 千佳	皮膚科	1,820,000	補委	文部科学省科学研究費(基盤研究C)
本邦ジューリング疱疹状皮膚炎の血清学的・遺伝学的研究	大畑 千佳	皮膚科	500,000	補委	石橋学術振興基金
世界初の新規樹立細胞株による基礎的研究:乳房外パージェット病の抗男性ホルモン療法	辛島 正志	皮膚科	1,560,000	補委	文部科学省科学研究費(基盤研究C)
アトピー性皮膚炎と遺伝:全エクソンシーケンスによる新規疾患感受性遺伝子の探索	濱田 尚宏	皮膚科	1,950,000	補委	文部科学省科学研究費(基盤研究C)
疱疹状天疱瘡・増殖性天疱瘡における抗デスモコリン自己抗体の関与の研究	石井 文人	皮膚科	600,000	補委	文部科学省科学研究費(若手研究B)
3種の病態実験モデルを用いた水疱性類天疱瘡における抗BP230抗体の病原性の検討	石井 文人	皮膚科	1,690,000	補委	文部科学省科学研究費(基盤研究C)
哺乳類細胞発現系組み換え蛋白質を使った天疱瘡のドメイン特異的ELISA法の確立	大山 文悟	皮膚科	1,950,000	補委	文部科学省科学研究費(若手研究B)
腫瘍随伴性天疱瘡における自己免疫発症と水疱形成機序の解明	夏秋 洋平	皮膚科	2,080,000	補委	文部科学省科学研究費(若手研究B)
170kD腫瘍随伴性天疱瘡など7種の未知自己免疫性水疱症抗原のプロテオミクス解析	荒川 正崇	皮膚科	1,540,000	補委	文部科学省科学研究費(基盤研究C)
EBA患者100例の臨床像と自己抗体の抗原エпитオプの関連性の検討	大塚 明奈	皮膚科	2,560,000	補委	文部科学省科学研究費(若手研究B)
皮膚エリテマトーデスにおけるループスバンドと抗基底膜抗体の相関	永田 寛	皮膚科	1,820,000	補委	文部科学省科学研究費(若手研究B)
去勢抵抗性前立腺がんに対する新規がんペプチドワクチン療法開発のための第Ⅰ相・第Ⅱ相(前半)臨床試験	野口 正典	先端癌治療研究センター	133,900,000	補委	H25年厚生科学研究費補助金
去勢抵抗性前立腺がんに対する新規がんペプチドワクチン療法開発のための第Ⅰ相・第Ⅱ相(前半)臨床試験	末金 茂高	泌尿器科	1,000,000	補委	H25年厚生科学研究費補助金
高感受性悪性腫瘍に対する標準的治療確立のための多施設共同研究	嘉村敏治	産婦人科	3,300,000	補委	独立行政法人国立がん研究センター
進行卵巣癌における核医学トレーサーとバイオマーカーによる化学療法感受性の予測	嘉村敏治	産婦人科	50,000	補委	文部科学省

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金 額	補助元又は委託元	
進行卵巣癌における核医学トレーサーとバイオマーカーによる化学療法感受性の予測	牛嶋公生	産婦人科	50,000	補委	文部科学省
the development of synthetic microRNA to cancer stem cell of gynecologic cancer	津田尚武	産婦人科	1,963,298	補委	文部科学省
培養口腔粘膜を用いた組織工学的手法による声帯再生	千年 俊一	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,300,000	補委	文部科学省
中咽頭癌における治療効果予測因子としてのYB-1遺伝子の解明	坂崎 友	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	500,000	補委	文部科学省
ヒト声帯幹細胞と細胞周辺環境(ニッチ)の解明	佐藤 公則	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,400,000	補委	文部科学省
声門閉鎖不全の外科手術におけるエビデンスの解明	梅野 博仁	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	700,000	補委	文部科学省
幹細胞移植による内耳再生における細胞間接着調節因子の有用性	上田 祥久	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	500,000	補委	文部科学省
ナノ粒子化した神経栄養因子を用いた顔面神経再生の研究	三橋 亮太	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	500,000	補委	文部科学省
PET/CTによる膵臓癌の予後予測と分子病理学に基づくFDG集積メカニズム	石橋正敏	放射線科	1,690,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
縦隔腫瘍取扱い規約に基づく縦隔区分法の評価と画像診断を用いた病期分類の提案と評価	藤本公則	画像診断センター	1,690,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
進行期卵巣癌における核医学トレーサーとバイオマーカーによる化学療法感受性の予測	倉田精二	放射線科	1,300,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
PET/CTと癌増殖シグナル伝達因子を用いた肺癌150例の生存率と予後解析	甲斐田勇人	放射線科	1,950,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
MAPキナーゼ経路制御因子Sproutyによる舌癌増殖／転移抑制機構の解明	武富 孝治	歯科口腔医療センター	1,170,000	補委	文部科学省科学研究費若手研究(B)
乳癌における免疫抑制的腫瘍微小環境と免疫学的治療戦略についての検討	関 直子	歯科口腔医療センター	1,560,000	補委	文部科学省科学研究費基盤研究(C)
カハール細胞ネットワークはシート状か? : 次世代電顕による間葉細胞の形態解析	中村桂一郎	解剖学講座顕微解剖・生体形成	1,950,000	補委	文部科学省科学研究費補助金: 挑戦的萌芽研究
次世代ストラクトーム解析による真皮細胞間相互作用の形態的評価と病態との関連	太田啓介	解剖学講座顕微解剖・生体形成	2,860,000	補委	文部科学省科学研究費補助金: 基盤研究(C)
骨・靱帯付着部における超形態・機能解剖学的構造とその破綻後の解明	金澤知之進	解剖学講座顕微解剖・生体形成	1,430,000	補委	文部科学省科学研究費補助金: 若手研究(B)
移植軟骨を軟骨膜様細胞へ分化・誘導させる新規因子の探索	力丸由起子	解剖学講座顕微解剖・生体形成	1,430,000	補委	文部科学省科学研究費補助金: 若手研究(B)
移植軟骨を軟骨膜様細胞へ分化・誘導させる新規因子の探索	力丸由起子	解剖学講座顕微解剖・生体形成	500,000	補委	石橋助成金
統合失調症の発症に関わる前頭前野および扁桃体に対するモノアミンの作用	田中永一郎	生理学講座 脳・神経機能部門	1,560,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
発達障害に対する神経内分泌ホルモン「グレリン」の関与とその治療効果	西 芳寛	生理学講座 脳・神経機能部門	910,000	補委	独立行政法人日本学術振興

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金 額	補助元又は委託元	
発達障害「レット症候群」に対する脳腸ホルモン「グレリン」を用いた治療法の開発	西 芳寛	生理学講座 脳・神経機能部門	500,000	補委	財団法人臨床研究奨励基金
Hcn4ノックインマウスを使ったバイオペスマーカー細胞の高効率スクリーニング	鷹野 誠	生理学講座 統合自律機能部門	8,710,000	補委	文部科学省科学研究費補助金・基盤研究(B)
高精度の分子遺伝学的評価による食道癌治療成績向上のための包括的研究	山本 健	医化学講座	500,000	補委	日本学術振興会・基盤研究(S)(一般)
HLA領域非コードRNA群の多様性と機能解析	山本 健	医化学講座	9,400,000	補委	文部科学省・新学術領域研究(領域提案型)
ゲノム科学の総合的推進に向けた大規模ゲノム情報生産・高度情報解析支援	山本 健	医化学講座	17,000,000	補委	文部科学省・新学術領域研究(生命科学系3分野支援活動)
分子遺伝学的解析による痛風の病態解明とゲノムテラーメイド医療への応用	山本 健	医化学講座	650,000	補委	日本学術振興会・基盤研究(B)(一般)
先端技術を駆使したHLA多型・進化・疾病に関する統合的研究	山本 健	医化学講座	200,000	補委	文部科学省・新学術領域研究(領域提案型)
ヘム生合成経路におけるテトラピロールの構築および環状化のメカニズム	佐藤 秀明	医化学講座	1,820,000	補委	日本学術振興会・基盤研究(C)(一般)
ヘムオキシゲナーゼ(HO)反応における電子の授受およびHO内部の電子伝達機構	佐藤 秀明	医化学講座	1,430,000	補委	日本学術振興会・基盤研究(C)(一般)
ヘムオキシゲナーゼと弱い相互作用を示す複合体の立体構造解析	杉島 正一	医化学講座	1,560,000	補委	日本学術振興会・若手研究(B)
ヒンジ領域欠損型CPR-HO複合体の立体構造解析	杉島 正一	医化学講座	500,000	補委	石橋学術振興基金
ヘムオキシゲナーゼに関わる蛋白質間相互作用およびCOによるシグナル伝達機構の解明	原田二郎	医化学講座	910,000	補委	日本学術振興会・若手研究(B)
光合成で駆動する細菌型“リピッドボディー”の創出	原田二郎	医化学講座	845,000	補委	日本学術振興会・挑戦的萌芽研究
病態別の患者の実態把握のための調査および肝炎患者の病態に即した相談に対応できる相談員育成のための研修プログラム策定に関する研究	矢野 博久	病理学講座	1,500,000	補委	厚生労働省科学研究補助金 研究代表者 八橋 弘
ATLの腫瘍化並びに急性転化、病型変化に関連する遺伝子群の探索と病態への関与の研究	大島 孝一	病理学	1,500,000	補委	厚生労働省科学研究費補助金:第3次がん総合戦略研究事業(瀬戸加大班)
ATLの診療実態・指針の分析による診療体制の整備	大島 孝一	病理学	800,000	補委	厚生労働省科学研究費補助金:がん臨床研究事業(塚崎邦弘班)
高感受性悪性腫瘍に対する標準治療確立のための多施設共同研究	大島 孝一	病理学	1,000,000	補委	国立がん研究センター:がん研究開発費(飛内賢正班)
標準治療抵抗性神経膠芽腫に対するペプチドワクチンの第Ⅲ相臨床研究	杉田 保雄	病理学	500,000	補委	厚生労働省科学研究費補助金:がん臨床研究事業(伊東恭悟班)
中枢神経原発悪性リンパ腫の免疫回避機構におけるエンドセリン受容体Bの役割	杉田 保雄	病理学	1,300,000	補委	文部科学省研究費補助金 基盤研究(C)
末梢性T細胞性リンパ腫、非特異型は腫瘍性T細胞のサブタイプで細分類できるか?	三好 寛明	病理学	1,820,000	補委	文部科学省研究費補助金 若手研究(B)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金 額	補助元又は委託元	
末梢性T細胞性リンパ腫、非特異型は腫瘍性T細胞のサブタイプで細分類できるか？	三好 寛明	病理学	500,000	補委	石橋学術振興基金
トリパノソーマ14-3-3はどのように細胞分裂を制御できるか？	井上雅広	感染医学講座真核微生物学部門	500,000	補委	長崎大学熱帯医学研究所共同研究助成金
アフリカ睡眠病の治療に直結した新規キナーゼAKB14-3-3分子の解析	井上雅広	感染医学講座真核微生物学部門	1,040,000	補委	文部科学省科学研究費補助金:基盤研究(C)
肝炎患者の口腔環境が肝病態の進展や抗ウイルス治療効果に及ぼす影響の解明	長尾 由実子	消化器疾患情報講座	500,000	補委	学術研究振興基金
C型肝炎の新規診断法や新規治療法を開発するためのゲノムワイド関連解析の手法を用いた宿主因子の解析に関する研究	長尾 由実子	消化器疾患情報講座	0	補委	厚生労働省
肝炎患者の口腔環境が肝病態の進展や抗ウイルス治療効果に及ぼす影響の解明	長尾 由実子	消化器疾患情報講座	1,950,000	補委	文部科学省
C型肝炎ウイルス感染者の疾病予防対策-インターフェロン治療を妨げる要因に関する研究	長尾 由実子	消化器疾患情報講座	1,000,000	補委	平成25年度 第11回「老年研究顕原賞」
「終末糖化産物受容体阻害アプタマーの開発と心血管病、癌への応用」	山岸昌一	糖尿病性血管合併症病態治療学	6,500,000	補委	文部科学省科学研究費補助金基盤研究(B)
血中フェチリンA高値は、脳梗塞発症の危険因子であるかの縦断研究	足達 寿	地域医療連携講座	910,000	補委	文部科学省:科学研究費助成事業
血漿FGF21はミトコンドリア病の臨床症状を反映できるか？	ハッ賀 秀一	地域医療連携講座	1,040,000	補委	文部科学省:科学研究費助成事業
血中フェチリンA高値は、脳梗塞発症の危険因子であるかの縦断研究	足達 寿	地域医療連携講座	910,000	補委	文部科学省:科学研究費助成事業
血漿FGF21はミトコンドリア病の臨床症状を反映できるか？	ハッ賀 秀一	地域医療連携講座	1,040,000	補委	文部科学省:科学研究費助成事業
門脈血行異常症に関する調査研究	鹿毛 政義	病院病理部	350000	補委	厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業(森安史典班)
慢性肝疾患における非侵襲的弾性検査法を用いた肝線維化予測に関する研究(FIBROERAST Study)	鹿毛 政義	病院病理部	1,500,000	補委	厚生労働科学研究費補助金難病・がん等の疾患分野の医療の実用化研究事業(工藤正俊班)
肺癌における免疫染色を用いた新しいEGFR遺伝子変異検出法の確立	河原 明彦	病院病理部	650,000	補委	文部科学省科学研究費補助金:若手研究(B)

小計 15

合計 184

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを入力すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合には「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	※別紙2のとおり			
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
～				
70				
～				

計

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。
- 5 平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	発行年月日	題 名	発表者氏名	所属部門
1 Annals of Allergy, Asthma&Immunology	2013年12月	Interleukin-18 expression, CD8(+) T cells, and eosinophils in lungs of nonsmokers with fatal asthma	Oda H	呼吸器・神経・膠原病内科部門
2 Modern Rheumatology	2013年8月	Successful treatment of macrophage activation syndrome in a patient with dermatomyositis by combination with immunosuppressive therapy and plasmapheresis	Kaieda S	呼吸器・神経・膠原病内科部門
3 Allergology International	2013年8月	Increased Serum Levels of Soluble IL-18 receptor Complex in patients with Allergic Asthma	Imaoka H	呼吸器・神経・膠原病内科部門
4 Kurume Medical Journal	2013年 8月	A Case of Late-Onset Systemic Lupus Erythematosus with Severe Anemia	Matsumoto M	呼吸器・神経・膠原病内科部門
5 PLoSOne	2013年 8月	Prognostic value of EGFR mutation and ERCC1 in patients with non-small cell lung cancer undergoing platinum- based chemotherapy	Shimamatsu F	呼吸器・神経・膠原病内科部門
6 Brain Research	2013年5月	Disrupted connectivity of motor loops in Parkinson's disease during self-initiated but not externally-triggered movements	Taniwaki T	呼吸器・神経・膠原病内科部門
7 Int J Mol Med	2013年4月	Microarray analyses of peripheral whole blood cells from ulcerative colitis patients: Effects of leukocytapheresis	Kobayashi T	消化器内科
8 Hepatol Res	2013年4月	Lipid profile is associated with the incidence of cognitive dysfunction in viral cirrhotic patients: A data-mining analysis	Taniguchi E	消化器内科
9 Dig Endosc	2013年5月	Evaluation of magnifying endoscopy using narrow band imaging using Ex Vivo bile duct (with Video)	Ishida Y	消化器内科
10 Hepatol Res	2013年5月	Technique of reintervention for stent dysfunction in patients with malignant hilar biliary stricture	Okabe Y	消化器内科
11 Dig Endosc	2013年6月	Probiotics promote rapid-turnover protein production by restoring gut flora in patients with alcoholic liver cirrhosis	Koga H	消化器内科
12 J Gastroenterol Hepatol	2013年9月	Effect of helicobacter pylori infection on esophagogastric variceal bleeding in patients with liver cirrhosis and portal hypertension	Sakamoto Y	消化器内科
13 Int J Mol Med	2013年11月	Green tea with high-density catechins improves liver function and fat infiltration in non-alcoholic fatty liver disease (NAFLD) patients : a double-blind placebo-controlled study	Sakata R	消化器内科
14 Liver Int	2013年11月	Independent factors associated with altered plasma active ghrelin levels in HCV-infected patients	Kawaguchi T	消化器内科
15 Oncol Rep	2013年11月	Effect of occult hepatitis B virus infection on the early-onset of hepatocellular carcinoma in patients with hepatitis C virus infection	Nakano M	消化器内科
16 Mol Clin Oncol	2014年1月	Usefulness of magnifying endoscopy with narrow-band imaging for diagnosis of depressed gastric lesions	Sumie H	消化器内科
17 Ann Surg Oncol	2014年3月	The significance of classifying microvascular invasion in patients with hepatocellular carcinoma	Sumie S	消化器内科
18 Atherosclerosis	2013年4月	Platelet-derived microparticles augment the adhesion and neovascularization capacities of circulating angiogenic cells obtained from atherosclerotic patients.	大塚 昌紀	心臓・血管内科

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	発行年月日	題 名	発表者氏名	所属部門
19 Heart Vessels	2013年5月	Utility of measuring C-reactive protein for prediction of in-hospital events in patients with acute aortic dissection.	翁 徳仁	心臓・血管内科
20 Am J Hypertens	2013年6月	High level of plasma remnant-like particle cholesterol may predispose to development of hypertension in normotensive subjects.	田中(笠原) 明子	心臓・血管内科
21 Circ J	2013年6月	Blood pressure variability activates cardiac mineralocorticoid receptor and induces cardiac remodeling in hypertensive rats.	安岡 逸	心臓・血管内科
22 Circ J	2013年6月	Reduction in morning blood pressure is a key factor for ameliorating urinary albumin excretion in patients with morning hypertension irrespectively of treatment regimen.	甲斐 久史	心臓・血管内科
23 Int J Cardiol	2013年8月	Screening for Fabry disease in patients with left ventricular hypertrophy.	馬渡 一寿	心臓・血管内科
24 Circ J	2013年9月	Respiratory variation of vertebral arterial flow in a patient scheduled for coronary artery bypass graft surgery - Lesson from atypical subclavian steal phenomenon -	姉川 敬裕	循環器病センター
25 Int J Cardiol	2013年9月	Asymmetrical dimethylarginine level is independently associated with circulating levels of RAGE and PEDF.	田原 宣広	心臓・血管内科
26 Circ J	2013年10月	Double-blind, placebo-controlled clinical trial with a Rho-kinase inhibitor in pulmonary arterial hypertension; a pilot efficacy trial.	福本 義弘	心臓・血管内科
27 JACC Cardiovasc Imaging	2013年10月	Statin therapy resolves coronary artery inflammation.	田原 宣広	心臓・血管内科
28 Rejuvenation Res	2013年10月	Pioglitazone decreases asymmetric dimethylarginine levels in patients with impaired glucose tolerance or type 2 diabetes.	田原 宣広	心臓・血管内科
29 JACC Cardiovasc Imaging	2013年11月	Pioglitazone decreases coronary artery inflammation in impaired glucose tolerance and diabetes mellitus: evaluation by FDG-PET/CT imaging.	新田 良和	心臓・血管内科
30 J Clin Endocrinol Metab	2013年11月	Effects of pioglitazone on visceral fat metabolic activity in impaired glucose tolerance or type 2 diabetes mellitus.	児玉 紀洋	心臓・血管内科
31 Int Heart J	2014年1月	Serum uric acid is associated with the left ventricular mass index in males of a general population.	吉村 彩子	心臓・血管内科
32 Nat Med	2014年2月	2-deoxy-2-[18F]fluoro-d-mannose positron emission tomography imaging in atherosclerosis.	田原 宣広	心臓・血管内科
33 Atherosclerosis	2014年3月	Serum vaspin levels are positively associated with carotid atherosclerosis in a general population.	江崎 英司	心臓・血管内科
34 PLOS ONE	2014年3月	FOXO4-knockdown suppresses oxidative stress-induced apoptosis of early pro-angiogenic cells and augments their neovascularization capacities in ischemic limbs.	仲吉 孝晴	心臓・血管内科

小計 16

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	発行年月日	題 名	発表者氏名	所属部門
35 J Stroke Cerebrovasc Dis	2013年9月	Early menopause and the risk of silent brain infarction in community-dwelling elderly subjects: the Sefuri Brain MRI Study.	福田 賢治	心臓・血管内科
36 J Cardiol	2013年9月	Impact of left ventricular ejection fraction in Japanese heart failure patients.	福本 義弘	心臓・血管内科
37 J Am Coll Cardiol	2014年2月	Alterations in coxsackievirus and adenovirus receptor (CAR) confer susceptibility to ventricular arrhythmia with an ischemic event.	安川 秀雄	循環器病センター
38 Curr Pharm Des	2013年6月	Molecular imaging of vascular inflammation.	田原 宣広	心臓・血管内科
39 Kidney International	2014年3月	Asymmetric dimethylarginine accumulates in the kidney during ischemia/reperfusion injury	Nakayama Y	腎臓内科
40 REJUVENATION RESEARCH	2013年8月	Potential Inhibitory Effects of L-Carnitine Supplementation on Tissue Advanced Glycation End Products in Patients with Hemodialysis	Fukami K	腎臓内科
41 DIABETES	2013年9月	DNA Aptamer Raised Against AGEs Blocks the Progression of Experimental Diabetic Nephropathy	Kaida Y	腎臓内科
42 Current Pharmaceutical Design	2013年6月	Role of AGEs-RAGE System in Cardiovascular Disease	Fukami K	腎臓内科
43 Therapeutic Apheresis and Dialysis	2013年4月	Effects of Switching Form Calcium Carbonate to Lanthanum Carbonate on Bone Mineral Metabolism in Hemodialysis Patients	Manabe R	腎臓内科
44 PLOS ONE	2013年7月	Selective Modulation of Wnt Ligands and Their Receptors in Adipose Tissue by Chronic Hyperadiporectinemia	和田 暢彦	内分泌代謝内科
45 Brain Dev	2013年5月	Impaired exploratory eye movements in children with Asperger's syndrome	Ohya T	小児科
46 Brain Dev	2013年12月	Relation between circulating GH, IGF-1, ghrelin and somatic growth in Rett syndrome	Hara M	小児科
47 Brain Dev	2013年5月	An adult patient with mucopolipidosis III alpha/beta presenting with parkinsonism	Hara M	小児科
48 Biopsychosoc Med.	2014年3月	High correlation between salivary cortisol awakening response and the psychometric profiles of healthy children.	Shibuya I, Nagamitsu S,	小児科
49 Brain Dev.	2014年1月	High incidence of sleep problems in children with developmental disorders: results of a questionnaire survey in a Japanese elementary school. Brain Dev. 2014;36:35-44.	Matsuoka M, Nagamitsu S	小児科
50 Int J Cardiol	2013年	Flying with giant coronary aneurysms caused by Kawasaki disease.	Teramachi Y	小児科

小計 16

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

	雑誌名	発行年月日	題 名	発表者氏名	所属部門
51	J Clinic Experiment Cardiol	2013年	Circulating myeloid dendritic cell is decreased in the acute phase of Kawasaki disease.	Suda K	小児科
52	Journal of Perinatology	2013年6月	Serial hemodynamic assessment using Doppler echocardiography in a fetus with left ventricular aneurysm presented as fetal hydrops.	Hirose A	小児科
53	Bull World Health Organ	2013年8月	Infection surveillance after a natural disaster: Lessons learnt from the Great East Japan Earthquake of 2011.	Iwata O	小児科
54	Eur J Pediatr	2013年8月	Refractory pulmonary hypertension following extremely preterm birth: Paradoxical improvement in oxygenation after atrial septostomy.	Saitsu H	小児科
55	Pediatr Int	2013年12月	Glycogenic hepatopathy and non-alcoholic fatty liver disease in type 1 diabetes patients	七種 護	小児科
56	Exp Ther Med	2013年	Benefit of the measurement of mesorectal extension in patients with pT3N1-2 rectal cancer without pre-operative chemoradiotherapy	Akagi Y	外科学
57	Gastric Cancer	2013年	Expression of CD133 in the cytoplasm is associated with cancer progression and poor prognosis in gastric cancer	Kousuke Hashimoto	外科学
58	MOLECULAR AND CLINICAL ONCOLOGY	2013年	expression in tumor cells and tumor-infiltrating lymphocytes is associated with breast cancer prognosis	MIKI TAKENAKA	外科学
59	Surg Today	2013年	Intersphincteric resection for very low rectal cancer: a systematic review	Yoshito Akagi	外科学
60	Hepatogastroenterology	2013年	Expression of p27Kip1 protein in gastric carcinoma	Aoyagi K	外科学
61	ONCOLOGY REPORTS	2013年	Potential usefulness of mucin immunohistochemical staining of preoperative pancreatic biopsy or juice cytology specimens in the determination of treatment strategies for intraductal papillary mucinous neoplasm	TORU HISAKA	外科学
62	Journal of Surgical Oncology	2013年	Extramural Extension as Indicator for postoperative adjuvant chemotherapy in Stage IIA (pT3NO) Colon Cancer	Akagi Y	外科学
63	World J Gastroenterol	2013年	Characteristics and prognosis of synchronous multiple early gastric cancer	Isobe T	外科学
64	International Journal of Surgery Case Reports	2013年8月	Regeneration of ring-shaped lateral meniscus after partial resection of discoid meniscus with anterior cruciate ligament reconstruction	副島 崇	整形外科
65	Case Reports in Orthopedics.	2013年	Hypersensitivity to Suture Anchors.	後藤昌史	整形外科

小計 15

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	発行年月日	題 名	発表者氏名	所属部門
66 J Orthop Surg Res.	2013年8月	The modified massive cuff stitch: functional and structural outcome in massive cuff tears.	後藤昌史	整形外科
67 Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc	2013年	Increased matrix metalloproteinase-3 gene expression in ruptured rotator cuff tendons is associated with postoperative tendon retear.	後藤昌史	整形外科
68 J Rehabil Res Dev	2013年	Cycling exercise to resist electrically stimulated antagonist increases oxygen uptake in males: Pilot study	松瀬博夫	整形外科
69 Nov Physiother	2013年	Oxygen Uptake during Aerobic Cycling Exercise Simultaneously Combined with Neuromuscular Electrical Stimulation of Antagonists.	大本 将之	整形外科
70 PRS Global Open	2013年5月	Anatomical Research of the Three-dimensional Route of the Thoracodorsal Nerve, Artery, and Veins in Latissimus Dorsi Muscle.	Takahashi N	形成外科・顎顔面外科
71 J. Craniofac. Surg.	2013年9月	Treatment Outcomes of Implants Performed After Regenerative Treatment of Absorbed Alveolar Bone Due to the Severe Periodontal Disease and Endoscopic Surgery for Maxillary Sinus Lift Without Bone Grafts.	Kiyokawa K	形成外科・顎顔面外科
72 J. Plast. Surg. Hand Surg.	2013年10月	Results of intra-wound continuous negative pressure irrigation treatment for mediastinitis.	Morinaga K	形成外科・顎顔面外科
73 Ann. Plast. Surg	2013年10月	Development of the Pectoral Perforator Flap and the Deltopectoral Perforator Flap Pedicled With the Pectoralis Major Muscle Flap.	Nishi Y	形成外科・顎顔面外科
74 J. Reconstr. Microsurg.	2013年11月	Maxillary Reconstruction using Chimeric Flaps of the Subscapular Artery System without Vein Grafts and the Novel Usage of Chimeric Flaps.	Watanabe K	形成外科・顎顔面外科
75 Surgical Neurology International	2014年2月	Unusual hemodynamic stroke related to an accessory middle cerebral artery: The usefulness of fusion images from three-dimensional angiography	野口 慶	脳神経外科
76 pediatric surgery international	2013年6月	Pre and post-operative evaluation of gastroesophageal reflux and esophageal motility in neurologically impaired children using combined pH-multichannel intraluminal impedance measurements	Fukahori Y	小児外科
77 pediatric surgery international	2013年7月	Neuroblastoma of the Urinary Bladder detected by Hematuria	Kojima S	小児外科
78 JAMA Dermatol	2013年4月	Coexistence of Pemphigus Herpetiformis With IgG Antibodies to Desmocollin 1 and Pemphigoid With IgG Antibodies to BP180 C-Terminal Domain and Laminin gamma2	Ohata C	皮膚科
79 Br J Dermatol	2013年4月	Concurrence of bullous pemphigoid and herpetiform pemphigus with IgG antibodies to desmogleins 1/3 and desmocollins 1-3	Ohata C	皮膚科
80 J Dermatol Sci	2013年5月	An attempt to develop mouse model for anti-laminin gamma1 pemphigoid	Koga H	皮膚科

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	発行年月日	題 名	発表者氏名	所属部門
81 Eur J Dermatol	2013年6月	Discoid lupus erythematosus with the presence of a lupus band in the hair follicle basement membrane zone and IgA anti-BP230 autoantibodies	Ohata C	皮膚科
82 J Dermatol	2013年6月	Successful treatment with 308-nm monochromatic excimer light and subsequent tacrolimus 0.03% ointment in refractory plasma cell cheilitis	Yoshimura K	皮膚科
83 J Invest Dermatol	2013年7月	Anti-alpha-2-macroglobulin-like-1 autoantibodies are detected frequently and may be pathogenic in paraneoplastic pemphigus	Numata S	皮膚科
84 Exp Dermatol	2013年8月	Potential mesenchymal stem cell therapy for skin diseases	Li X	皮膚科
85 J Dermatol	2013年9月	Case of relapsing polychondritis showing elevation of anti-type II collagen antibody titer	Tani N	皮膚科
86 J Dermatol	2013年9月	Second reported case of unilateral angiokeratoma of the vulva	Yoshida Y	皮膚科
87 Indian J Dermatol Venereol Leprol	2013年9月	Edema and ulcers on the legs and dilated abdominal veins caused by thromboembolism of inferior vena cava in a patient with protein C deficiency	Kawano H	皮膚科
88 Eur J Dermatol	2013年9月	Refractory anti-laminin gamma1 pemphigoid with psoriasis vulgaris successfully treated by double-filtration plasmapheresis	Ohata C	皮膚科
89 Eur J Dermatol	2013年9月	Three cases of pseudolymphoma successfully treated with amoxicillin	Ohzono A	皮膚科
90 JAMA Dermatol	2013年10月	Two cases of pemphigus vegetans with IgG anti-desmocollin 3 antibodies	Saruta H	皮膚科
91 N Am J Med Sci	2013年10月	Towards understanding mechanisms of autoimmune bullous skin diseases	Krol RP	皮膚科
92 J Dermatol	2013年11月	Old-aged case of indolent grade III lymphomatoid granulomatosis successfully treated only with oral prednisolone	Saruta H	皮膚科
93 Contact Dermatitis	2013年11月	Allergic contact dermatitis caused by phenylethyl resorcinol [4-(1-phenylethyl)-1,3-benzenediol], a skin-lightening agent in cosmetics	Gohara M	皮膚科
94 J Dermatol	2013年12月	Morphological changes of the hair roots in alopecia areata: A scanning electron microscopic study	Karashima T	皮膚科
95 J Dermatol	2013年12月	Multiple unilocular epidermal cysts presenting as a single lesion on the toe web	Saruta H	皮膚科

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	発行年月日	題 名	発表者氏名	所属部門
96 J Invest Dermatol	2014年3月	Complete maternal isodisomy of chromosome 5 in a Japanese patient with netherton syndrome	Numata S	皮膚科
97 Exp Dermatol	2014年3月	Signalling pathways in pemphigus vulgaris	Li X	皮膚科
98 Eur J Dermatol	2014年3月	Adenocarcinoma of Moll's gland with multiple metastases. Eur J Dermatol	Saruta H	皮膚科
99 Cancer Immunol Immunother 62: 919-929	2013年	Personalized peptide vaccination: a new approach for advanced cancer as therapeutic cancer vaccine.	野口 正典	先端癌治療研究センター
100 Oncol Rep, 30:1094-1100	2013年	A phase II study of a personalized peptide vaccination for chemotherapy-resistant advanced pancreatic cancer patients.	野口 正典	先端癌治療研究センター
101 Plos One	2013年	Aldehyde dehydrogenase 1 identifies cells with cancer stem cell-like properties in a human renal cell carcinoma cell line.	野口 正典	先端癌治療研究センター
102 BMC Cancer 13:613. doi: 10.1186/1471-2407-13-613.	2013年	A phase II trial of personalized peptide vaccination in castration-resistant prostate cancer patients: prolongation of prostate-specific antigen doubling time.	野口 正典	先端癌治療研究センター
103 Cancer Sci, 104: 15-21.	2013年	Next-generation peptide vaccines for advanced cancer	野口 正典	先端癌治療研究センター
104 Human Vaccines Immunother, 9:1069-1072.	2013年	Current status of immunotherapy for the treatment of biliary tract cancer.	野口 正典	先端癌治療研究センター
105 Curr Med Chem.	2013年	Personalized peptide vaccine for treatment of advanced cancer.	野口 正典	先端癌治療研究センター
106 Int J Clin Onco	2013年	Docetaxel / irinotecan combination chemotherapy in platinum/ taxane-refractory and-resistant ovarian cancer: JGOG/WJGOG Intergroup Study	Ushijima K	産婦人科
107 J Gynecol Oncol	2013年4月1日	Concurrent chemoradiotherapy with low-dose daily cisplatin for high risk uterine cervical cancer: a long-term follow-up study	Ushijima K	産婦人科
108 Taiwanese Journal of Obstetrics & Gynecology	2013年	Chemotherapy for advanced or recurrent cervical cancer	Kamura T	産婦人科
109 Clinical Ophthalmology	2013年7月	Development of a novel disposable lid speculum with a drape.	Urano T	眼科
110 J Thorac Imaging	2013年	ulcerative colitis: high-resolution computed tomography and pathologic findings.	Naoko Ikehara	放射線科

小計 15

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	発行年月日	題 名	発表者氏名	所属部門
111 Int J Hematol	2013年	18F-FDG uptake in primary gastric malignant lymphoma correlates with glucose transporter 1 expression and histologic malignant potential.	Yuko Watanabe	放射線科
112 J Radiat Res	2013年	Quantitative evaluation of light scattering intensities of the crystalline lens for radiation related minimal change in interventional radiologists: a cross-sectional pilot study.	Toshi Abe	放射線科
113 Nucl Med Commun	2013年	The relationship between 18F-FDG metabolic volumetric parameters and clinicopathological factors of breast cancer.	Hayato Kaida	放射線科
114 Journal of Cancer Therapy	2013年	Cell Origin Subtypes Predict Outcomes in Localized-Stage Diffuse Large B-Cell Lymphoma Treated with Curative Radiotherapy.	Yuko Watanabe	放射線科
115 Ann Nucl Med	2013年	Assessment of atherosclerosis in oncologic patients using 18F-fluoride PET/CT.	Seiji Kurata	放射線科
116 Anticancer Res	2013年	Non-surgical Multimodality Treatment for Locally Advanced (T3-4) Hypopharyngeal Cancer: The Impact of Pre-treatment Hemoglobin Level.	Gen Suzuki	放射線科
117 Acta Histochem	2013	Bone marrow stromal cells can cause subcutaneous fibroblasts to differentiate into osteocytes in a physically stable spatial microenvironment in rats	Ryuichiro Tanoue	歯科口腔医療センター
118 The Kurume Medical Journal	2013年	An Immunohistochemistry-Based Study on Aquaporin (AQP)-1, 3, 4, 5 and 8 in the Parotid Glands, Submandibular Glands and Sublingual Glands of Sjögren's Syndrome Mouse Models Chronically Administered Cevimeline.	Moriyoshi Nakamura	歯科口腔医療センター
119 J Infect Chemother	2013年	Comparison study of single and concurrent administrations of carbapenem, new quinolone, and macrolide against in vitro nontypeable Haemophilus influenzae mature biofilms	Uemura Y	臨床感染症医学
120 Abdominal Oncology	2013年	Objective Detection for Biliary Tract Carcinoma Using Autofluorescence Imaging	Nogita H	外科学
121 Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases	2013年	Efficient Transduction of 11 Poly-arginine Peptide in an Ischemic Lesion of Mouse Brain	Yuki Gotanda	麻酔科
122 Muscles, Ligaments and Tendons Journal	2013年	Novel characteristics of normal supraspinatus insertion in rats: an ultrastructural analysis using three-dimensional reconstruction using focused ion beam/scanning electron microscope tomography	Tomonoshin Kanazawa	解剖学講座顕微解剖・生体形成部門

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	発行年月日	題 名	発表者氏名	所属部門
123 Ligaments and Tendons Journal	2013年	Tendon-to-bone healing using autologous bone, marrow-derived mesenchymal stem cells in ACL reconstruction without a tibial bone tunnel -A histological study-. Muscles	Tomonoshin Kanazawa	解剖学講座顕微解剖・生体形成部門
124 Ann Surg Oncol.	2013年4月	The rs6983267 SNP Is Associated with MYC Transcription Efficiency, Which Promotes Progression and Worsens Prognosis of Colorectal Cancer.	山本 健	医化学講座
125 J Atheroscler Thromb.	2013年4月	Genetic impact on uric Acid concentration and hyperuricemia in the Japanese population.	山本 健	医化学講座
126 PLoS ONE	2013年4月	SORL1 Is Genetically Associated with Late-Onset Alzheimer's Disease in Japanese, Koreans and Caucasians.	山本 健	医化学講座
127 PLoS ONE	2013年4月	Specific gene <i>bciD</i> for C7-methyl oxidation in bacteriochlorophyll <i>a</i> biosynthesis of brown-colored green sulfur bacteria.	原田 二郎	医化学講座
128 Bioorganic & Medicinal Chemistry	2013年4月	Cyclopropane-ring formation in the acyl groups of chlorosomal glycolipids is crucial for acid resistance of green bacterial antenna systems	原田 二郎	医化学講座
129 Psychiatr Genet.	2013年6月	Genome-wide association study of schizophrenia using microsatellite markers in the Japanese population.	山本 健	医化学講座
130 Sci Rep.	2013年6月	Common dysfunctional variants in ABCG2 are a major cause of early-onset gout.	山本 健	医化学講座
131 PLoS ONE	2013年8月	Identification of a KEAP1 germline mutation in a family with multinodular goitre.	山本 健	医化学講座
132 Br J Ophthalmol.	2013年9月	Familial acroea, microphthalmia and cataract syndrome.	山本 健	医化学講座
133 Genome Res.	2013年9月	CCAT2, a novel noncoding RNA mapping to 8q24, underlies metastatic progression and chromosomal instability in colon cancer.	山本 健	医化学講座
134 Photochemical & Photobiological Sciences	2013年10月	Bacteriochlorophyll homolog compositions in the <i>bchU</i> mutants of green sulfur bacteria.	原田 二郎	医化学講座
135 PLoS ONE	2013年11月	Gene expression system in the green sulfur bacterium <i>Chlorobaculum tepidum</i> by conjugative plasmid transfer.	原田 二郎	医化学講座
136 J. Hum. Genet.	2013年12月	A genome-wide association study of third molar agenesis in Japanese and Korean populations.	山本 健	医化学講座
137 Circ Cardiovasc Genet	2013年12月	Identification of a glutamic acid repeat polymorphism of ALMS1 as a novel genetic risk marker for early-onset myocardial infarction by genome-wide linkage analysis.	山本 健	医化学講座
138 Sci Rep.	2014年1月	ABCG2 dysfunction causes hyperuricemia due to both renal urate underexcretion and renal urate overload.	山本 健	医化学講座

小計 16

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

	雑誌名	発行年月日	題 名	発表者氏名	所属部門
139	J Clin Endocrinol Metab.	2014年2月	Identification of Independent Susceptible and Protective HLA Alleles in Japanese Autoimmune Thyroid Disease and Their Epistasis.	山本 健	医化学講座
140	Hum Mol Genet.	2014年2月	A meta-analysis of genome-wide association studies for adiponectin levels in East Asians identifies a novel locus near WDR11-FGFR2.	山本 健	医化学講座
141	Proc Natl Acad Sci USA	2014年2月	Structural basis for the electron transfer from an open form of NADPH-cytochrome P450 oxidoreductase to heme oxygenase	杉島 正一	医化学講座
142	Nat Genet.	2014年3月	Genome-wide trans-ancestry meta-analysis provides insight into the genetic architecture of type 2 diabetes susceptibility.	山本 健	医化学講座
143	PLoS One	2013年8月21日	RECQL1 DNA repair helicase: a potential therapeutic target and a proliferative marker against ovarian cancer.	矢野博久	病理学講座
144	International Journal of Oncology	2013年4月17日	Antiproliferative effects of sorafenib and pegylated IFNalpha2b on human liver cancer cells in vitro and in vivo	矢野博久	病理学講座
145	PLoS One	2013年12月19日	Pegylated Interferon-alpha2a Inhibits Proliferation of Human Liver Cancer Cells In Vitro and In Vivo	矢野博久	病理学講座
146	Neuropathology	2013年	Anaplastic astrocytoma with abundant Rosenthal fibers in elderly patients: a diagnostic pitfall of high-grade gliomas.	杉田 保雄	病理学講座
147	Eur J Haematol.	2013年	Methotrexate/iatrogenic lymphoproliferative disorders in rheumatoid arthritis: histology, Epstein-Barr virus, and clonality are important predictors of disease progression and regression.	市川 理子	病理学講座
148	Pathology international	2013年	Clinicopathological features of acute megakaryoblastic leukaemia: Relationship between fibrosis and platelet-derived growth factor.	新野 大介	病理学講座
149	Int J Oncol.	2013年	The Wnt signaling pathway and mitotic regulators in the initiation and evolution of mantle cell lymphoma: Gene expression analysis.	木村 芳三	病理学講座
150	Neuropathology	2013年	Recurrent left frontal lobe cystic tumor in 49-year-old woman.	杉田 保雄	病理学講座

小計 12

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	発行年月日	題 名	発表者氏名	所属部門
151 Pathology international	2014年	CD5-positive follicular lymphoma characterized by CD25, MUM1, low frequency of t(14;18) and poor prognosis.	三好 寛明	病理学講座
152 Pathology international	2014年	Pancreatic intraepithelial neoplasia-3 arising from ectopic pancreas in the jejunum.	新野 大介	病理学講座
153 The Journal of Biochemistry	2013年3月	<i>Trypanosoma brucei</i> 14-3-3I and II proteins predominantly form a heterodimer structure that acts as a potent cell cycle regulator in vivo.	Inoue M	感染医学講座 核微生物学部門
154 J Nutr Food Sci	2013年	Effect of a late evening snack of amazake in patients with liver cirrhosis: a pilot study	Nagao Y	消化器疾患情報 講座
155 J Gastroenterol	2013年	Chronic HCV infection was associated with severe insulin resistance and mild atherosclerosis: a population-based study in an HCV hyperendemic area	Nagao Y	消化器疾患情報 講座
156 Diabetes Metab Res Rev. 2013 Nov;29(8):624-30.	2013年11月	Efficacy of alogliptin, a dipeptidyl peptidase-4 inhibitor, on glucose parameters, the activity of the advanced glycation end product (AGE) - receptor for AGE (RAGE) axis and albuminuria in Japanese type 2 diabetes.	Sakata K, Hayakawa M, Yano Y, Tamaki N, Yokota N, Eto T, Watanabe R, Hirayama N, Matsuo T, Kuroki K, Sagara S, Mishima O, Koga M, Nagata N, Nishino Y, Kitamura K, Kario K, Takeuchi M, Yamagishi S.	糖尿病性血管合併症病態治療学
157 Cardiovasc Diabetol. 2013 Aug 28;12:125.	2013年8月	Advanced glycation end products evoke endothelial cell damage by stimulating soluble dipeptidyl peptidase-4 production and its interaction with mannose 6-phosphate/insulin-like growth factor II receptor.	Ishibashi Y, Matsui T, Maeda S, Higashimoto Y, Yamagishi S.	糖尿病性血管合併症病態治療学
158 Molecular Immunology	2013年	Fine-mapping naturally occurring NY-ESO-1 antibody epitopes in melanoma patients' sera using short overlapping peptides and full-length recombinant protein	小松 誠和	免疫学講座
159 PLoS ONE	2013年	EGFR T790M mutation as a possible target for immunotherapy; identification of HLA-A*0201-restricted T cell epitopes derived from the EGFR T790M mutation	山田 哲平	免疫学講座
160 Journal of gastroenterology.	2013年4月	Accumulation of platelets in the liver may be an important contributory factor to thrombocytopenia and liver fibrosis in chronic hepatitis C.	Kondo R	腫瘍センター

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

	雑誌名	発行年月日	題 名	発表者氏名	所属部門	
161	Cancer cytopathology.	2014年3月	Fixation effect of SurePath preservative fluids using epidermal growth factor receptor mutation-specific antibodies for immunocytochemistry.	Kawahara A	病院病理部	
162	Radiological Physics and Technology	2013年6月	Computerized image-searching method for finding correct patients for misfiled chest radiographs in a PACS server by use of biological fingerprints	Risa Toge (峠 理沙)	画像診断センター	
163	Physica Medica	2014年1月	Development of an automatic ROI setting program for input function determination in 99mTc-ECD non-invasive cerebral blood flow quantification	Shinichiro Masunaga (増永 新一郎)	画像診断センター	
164	Am J Respir Crit Care Med	2013年	Mechanisms of Cardiac and Renal Dysfunction in Patients Dying of Spsis.	Takasu O	高度救命救急センター	小計 5
165	J Infect Chemother	2013年	Infection control for a methicillin-resistant Staphylococcus aureus outbreak in advanced emergency medical service center, as monitored by molecular analysis.	Hidaka H	感染制御部	合計 165

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文とし

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	①・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	①・無
・ 手順書の主な内容 審査対象、申請手順、審査区分など	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

2 「③倫理審査委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかにすること）。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	①・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	①・無
・ 規定の主な内容 産学官連携活動における利益相反を適正にマネジメントすること	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年12回

(注) 「③利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかにすること）。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年0回
・ 研修の主な内容	

(注) 「①臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況」に係る報告については、平成二十六年中
の業務報告において実施実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し
支えないこと（その場合には、その旨を明らかにすること）。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

※別紙1のとおり

2 研修の実績

研修医の人数

138.14人

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
※別紙2のとおり			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する臨床研修の実施

	診療科	研修内容	統括者氏名	
1	内 科	上部内視鏡検査	消化器内科	鳥村 拓司
		腹部エコー検査		
		心臓カテーテル検査、冠動脈形成術、末梢動脈形成術	心臓・血管内科	福本 義弘
		心エコー・経食道エコー検査		
		ペースメーカー・除細動器植え込み術、心臓再同期療法術	腎臓内科	奥田 誠也
		血液透析を含む血液浄化に関する研修		
		ソマトスタチンアナログと人工膵臓によるインスリン抵抗性と膵β細胞機能の評価	内分泌代謝内科	山田 研太郎
		エコーガイド下における甲状腺腫瘍に対する穿刺吸引細胞診		
2	精神神経科	精神神経科専門研修	精神神経科	内村 直尚
3	小児科	小児不整脈に対するカテーテルアブレーション治療	小児科	古賀 靖敏
		重症新生児仮死に対する脳低温療法		
		心房中隔欠損症に対するカテーテルアンブラツター治療		
		Rett症候群に対するグレリン治療		
		ミトコンドリア脳筋症に合併する高乳酸血症に対するビルビン酸ナトリウム治療法		
4	整形外科	整形外科疾患に対する診察診断技術と術式の研修、周術期の管理	整形外科	志波 直人
5	形成外科・顎顔面外科	形成外科基本的理論研修(創傷治癒、皮膚切開、皮膚縫合、真皮縫合、採皮、植皮)	形成外科・顎顔面外科	清川 兼輔
		形成外科基本的手術手技の研修(局所麻酔手術の執刀)		
6	脳神経外科	脳血管撮影	脳神経外科	森岡 基浩
		穿頭手術		
7	外科	一般外科・小児外科研修	小児外科	八木 実
		ABI検査、ドップラー検査、下肢エコー検査	外科	田中 啓之
8	皮膚科	専門医取得のための各論理的研修	皮膚科	名嘉真 武国
9	泌尿器科	腹部エコー検査、透視下造影検査	泌尿器科	井川 掌
10	産婦人科	産科周産期研修	産婦人科	牛嶋 公生
11	眼科	眼科基本的診察および治療の学習	眼科	山川 良治
		網膜光凝固術などの眼科処置の習得		
12	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科疾患に対する診察診断技術と手術の研修、周産期管理	耳鼻咽喉科	梅野 博仁
13	放射線科	MRI・CT・IVR等の総合的画像診断学の理解と読影手技の研修	放射線科	安陪 等思
		放射線治療の位置決め並びにがん治療の基本的考え方とIVRの総合的画像診断学の理解と読影手技の研修		
		核医学の読影手技と適応疾患と核種の理解に関する研修		
		透視や内視鏡による消化管検査の理解に関する研修		
14	歯科口腔医療センター	口腔外科手術手技勉強会	歯科口腔医療センター	楠川 仁悟
15	麻酔科	手術麻酔(術中麻酔管理)	麻酔科	牛島 一男
16	高度救命救急センター	救急医療	高度救命救急センター	坂本 照夫

研 修 統 括 者

研修統括者氏名	診 療 科	役 職	臨床経験年数	特 記 事 項
星野 友昭	呼吸器・神経・膠原病内科	診療部長	25	
谷脇 考恭		診療部長	29	
井田 弘明		診療部長	26	
鳥村 拓司	消化器内科	診療部長	31	
福本 義弘	心臓・血管内科	診療部長	22	
奥田 誠也	腎臓内科	診療部長	38	
山田 研太郎	内分泌代謝内科	診療部長	36	
長藤 宏司	血液・腫瘍内科	診療部長	25	
内村 直尚	精神神経科	診療部長	31	
古賀 靖敏	小児科	診療部長	38	
赤木 由人	外 科	診療部長	27	
田中 啓之		診療部長	32	
志波 直人	整形外科	診療部長	31	
清川 兼輔	形成外科	診療部長	30	
森岡 基浩	脳神経外科	診療部長	28	
八木 実	小児外科	診療部長	31	
名嘉真 武国	皮膚科	診療部長	26	
井川 掌	泌尿器科	診療部長	25	
牛嶋 公生	産婦人科	診療部長	30	
山川 良治	眼 科	診療部長	34	
梅野 博仁	耳鼻咽喉科	診療部長	25	
安陪 等思	放射線科	診療部長	29	
楠川 仁悟	歯科口腔医療センター	診療部長	26	
牛島 一男	麻酔科	診療部長	35	
坂本 照夫	高度救命救急センター	センター長	36	

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
なし
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
なし
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。なお、平成二十六年度中の業務報告においては、平成二十六年四月以降の実績（計画）を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかにすること）。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

計画・現状の別	1. 計画 2. 現状			
管理責任者氏名	病 院 長 坂 本 照 夫			
管理担当者氏名	診 療 関 係 各診療科部長(別紙1) 管 理 関 係 事務部長 小河 和弘			
	保管場所	分 類 方 法		
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、 看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、 退院した患者に係る 入院期間中の 診療経過の要約 及び入院診療計画書	各診療科の 医局資料室 病院資料室 セミアクティブカルテ室 診療情報管理室 外部倉庫 電子カルテシステム	①紙媒体(入院):平成15年4月1日以降に退院した患者の診療録及び診療諸記録に関しては、ID番号を付与しターミナルデジット方式にて診療情報管理部及び外部倉庫で保管。エックス線写真は各外来診療科・セミアクティブカルテ室(総合診療棟3階)・各診療科の医局及び資料室で保管。平成15年3月31日以前に退院した患者の診療録及び診療諸記録に関しては、各診療科独自の管理番号付与方式にて各診療科の医局及び資料室・外部倉庫にて保管。(外来):最終受診日から1年以内の診療録及び診療諸記録に関しては、ID番号を付与し、ターミナルデジット方式にて各外来診療科にて保管。1年以上経過した診療諸記録に関しては、ターミナルデジット及び各診療科独自の管理番号を付与し、セミアクティブカルテ室(病院本館西2階・総合診療棟3階)・各診療科の医局及び資料室・外部倉庫にて保管。 ②電子媒体(入院/外来共通) 平成25年10月1日以降に発生する診療録及び診療諸記録は、入院・外来ともに電子媒体に保管。		
病院の管理及び 運営に関する諸 記録	従業者数を明らかにする帳簿	病院管理課		
	高度の医療の提供の実績	病院管理課		
	高度の医療技術の開発及び 評価の実績	病院管理課		
	高度の医療の研修の実績	病院管理課		
	閲覧実績	病院管理課		
	紹介患者に対する医療提供 の実績	病院管理課		
	入院患者数、外来患者及び 調剤の数を明らかにする帳簿	病院経営室 及び薬剤部		
	第 規 一 則 号 第 一 掲 条 の 十 一 体 制 第 一 保 項 の 各 状 況 及 び 第 九 条 の 二 十 三 第 一 項	医療に係る安全管理のための 指針の整備状況		医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための 委員会の開催状況		医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための 職員研修の実施状況		医療安全管理部
		医療機関内における事故報告等の 医療に係る安全の確保を目的と した改善のための方策の状況		医療安全管理部
		専任の医療に係る安全管理を 行う者の配置状況		医療安全管理部
		専任の院内感染対策を 行う者の配置状況		感染制御部
		医療に係る安全管理を行う 部門の設置状況		医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理 に係る相談に適切に応じる体制の 確保状況		医療安全管理部

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	久留米大学HP 感染関連マニュアル集
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医療安全管理部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医療安全管理部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部長事務取扱
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	手順書…各部署 実施状況…薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	手順書…各部署 実施状況…薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	医療機器管理責任者 山下典雄 (臨床工学センター長)
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学センター 画像診断センターA 放射線治療センター
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学センター 画像診断センター 放射線治療センター 核医学検査室 心臓カテーテル検査室
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学センター 画像診断センター

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

管理担当者一覧

診療科	管理担当者氏名	診療科	管理担当者氏名
呼吸器・神経・膠原病内科	星野 友昭	泌尿器科	井川 掌
消化器内科	鳥村 拓司	産婦人科	牛嶋 公生
心臓・血管内科	福本 義弘	眼 科	山川 良治
腎臓内科	奥田 誠也	耳鼻咽喉科	梅野 博仁
内分泌代謝内科	山田 研太郎	放射線科	安陪 等思
血液・腫瘍内科	長藤 宏司	歯科口腔医療センター	楠川 仁悟
精神神経科	内村 直尚	麻酔科	牛島 一男
小児科	松石 豊次郎	高度救命救急センター	坂本 照夫
外 科	赤木 由人	呼吸器病センター	星野 友昭
	田中 啓之	消化器病センター	鶴田 修
整形外科	志波 直人	循環器病センター	田中 啓之
形成外科	清川 兼輔	内科総合外来	山田 研太郎
脳神経外科	森岡 基浩	乳腺外科・一般外科総合外来	赤木 由人
小児外科	八木 実	薬剤部	八木 実
皮膚科	名嘉真 武国		

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1.計画 ②現状	
閲覧責任者氏名	病 院 長 坂 本 照 夫	
閲覧担当者氏名	診療関係 各診療科部長(別紙) 管理関係 事務部長 小河 和弘	
閲覧の求めに応じる場所	第3会議室	

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延 0 件
閲覧者別	医師	延 0 件
	歯科医師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

関 覧 担 当 者 一 覧

診 療 科	管理担当者氏名	診 療 科	管理担当者氏名
呼吸器・神経・膠原病内科	星野 友昭	泌尿器科	井川 掌
消化器内科	鳥村 拓司	産婦人科	牛嶋 公生
心臓・血管内科	福本 義弘	眼 科	山川 良治
腎臓内科	奥田 誠也	耳鼻咽喉科	梅野 博仁
内分泌代謝内科	山田 研太郎	放射線科	安陪 等思
血液・腫瘍内科	長藤 宏司	歯科口腔医療センター	楠川 仁悟
精神神経科	内村 直尚	麻酔科	牛島 一男
小児科	松石 豊次郎	高度救命救急センター	坂本 照夫
外 科	赤木 由人	呼吸器病センター	星野 友昭
	田中 啓之	消化器病センター	鶴田 修
整形外科	志波 直人	循環器病センター	田中 啓之
形成外科	清川 兼輔	内科総合外来	山田 研太郎
脳神経外科	森岡 基浩	乳腺外科・一般外科総合外来	赤木 由人
小児外科	八木 実	薬剤部	八木 実
皮膚科	名嘉真 武国		

(様式第 6)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容： 1. 安全管理に係る基本的考え方 2. 安全管理のための委員会、その他医療機関内の組織に関わる基本的事項 3. 安全管理の職員研修に関わる基本方針 4. 事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした方針に関する基本方針 5. 医療事故発生時の対応に関する基本方針 6. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 7. 患者からの相談への対応に関する基本方針 8. その他医療安全の推進のために必要な基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12 回
・ 活動の主な内容：医療安全管理対策委員会 医療の安全管理の啓蒙、普及、徹底、評価のための必要な事項 インシデントおよび事故事例報告と再発防止対策の策定、巡回確認 各下部委員会と連携	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 15 回
・ 研修の主な内容：TQM講習会（安全、感染）毎月1回、その他臨時実施 主な内容：「麻薬と取扱い・持参薬の鑑別について」 「インフォームドコンセントが問題となった事例について」 「異状死届・死亡診断書について」 「一次救急に関するラビットレスポンス」 「CT・MRIセンターにおける造影剤副作用発生時の取り組み」	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備 （ 有・無 ） ・ その他の改善のための方策の主な内容： 委員会巡回確認 委員会での再発防止策の策定 職員研修 安全情報（日本医療機能評価機構、医療事故情報等）からポスター作製 委員会報告 等	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有（ 5 名）・無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（ 5 名）・無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無
・ 所属職員： 専任（ 5 ）名 兼任（ 7 ）名 ・ 活動の主な内容： 医療安全管理対策の推進 医療安全各委員会企画・運営 事故等に関する診療録や看護記録への記載についての、確認及び指導に関すること 患者や家族への説明や事故発生時の対応状況についての、確認及び指導に関すること 事故等の原因究明が適切に実施されていることについての、確認及び指導に関すること 医療安全に係る連絡調整に関すること	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有・無

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染のための指針の策定状況	(有) ・ 無
・ 指針の主な内容: 1.医療関連感染対策に関する基本的な考え方 2.委員会等に関する基本的事項 3.職員研修に関する基本指針 4.感染発生状況の報告に関する基本方針 5.感染発生時対応に関する基本指針 6.指針の閲覧に関する基本方針 7.その他医療関連感染対策の推進のために必要な基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
・ 活動の主な内容 : VRE積極的監視培養の結果報告、ICTからの活動報告(抗生剤適正使用状況監視・サーベイランス結果報告・針刺し・切創報告・ICT活動(週1回程度の病棟ラウンド)状況・LN会活動状況報告等)	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 40 回
・ 研修の主な内容 : 2013年4月1日～2014年3月31日 経路別感染予防対策、手指衛生、抗生剤適正使用、針刺し、切創対策など	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有 ・ 無) ・ その他の改善のための方策の主な内容: 血培陽性者および感染症法に定められた感染症に関する菌(耐性菌)・ウイルスに関しては平日、感染制御部スタッフが電子カルテ上で確認、そのつどICD/ICNが介入。保健所などへの報告は主に感染制御部が介入し行っている。院内感染対策推進として院内でICT/LN活動を積極的に行い、病棟出張勉強会にも力をいれている。また院外では地域病院と連携し研修・講習会を実施している。	

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	(有) ・ 無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 1 回
・ 研修の主な内容 : 平成26年4月11日 第101回 久留米大学病院TQM講習会 「医薬品の安全使用について」	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (有 ・ 無) ・ 業務の主な内容 : ○病棟・外来の定数配置薬の数や有効期限の定期的チェック ○麻薬・向精神病薬の管理状況の巡回 ○手順書遵守状況の確認(ダブルチェック、指示出し・指示受け等)	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有 ・ 無) ・ その他の改善のための方策の主な内容: ○日本医療機能評価機構の医療安全情報を電子カルテシステムに載せ、各病棟にも配布し、医師・看護師等に周知徹底を図る。 ○PMDAからの医薬品適正使用のお願いを電子カルテシステム上に載せ、関係する病棟・外来には適正使用の確認をする。 ○緊急性のある医薬品情報、医薬品の販売名称等を電子カルテシステムのメッセージ機能により全職員に配布し、リアルタイムに情報を提供している。	

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	(有) ・ 無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 16 回
・ 研修の主な内容 : 新規設置された機器の取扱い説明会 (X線装置、ワークステーション、CR装置)	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 計画の策定 (有) ・ 無) ・ 保守点検の主な内容 : 始業点検 メーカーによる定期点検 自主点検	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有) ・ 無) ・ その他の改善のための方策の主な内容: 被爆線量低減のため、フォトタイマーの管理、透視時間管理。 パルスレートを下げた透視の実施を行っている。	

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有 ・ 無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 26 回
・ 研修の主な内容： ① 人工呼吸器：患者さんに安全な人工呼吸器療法及び構造、アラームおよび対処法 ② 閉鎖式保育器：保育器管理におさえておきたい基本、その他 ③ 血液浄化装置：血液浄化の安全管理、緊急時及びアラーム時の対処について、その他 ④ 人工心肺装置及び補助循環装置：安全な取扱い、緊急時の対処法、日常の管理について ⑤ 除細動装置：基本的な構造及び使用方法、日常点検、注意事項について	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 計画の策定 (有 ・ 無) ・ 保守点検の主な内容： 人工呼吸器、閉鎖式保育器、血液浄化装置、人工心肺装置及び補助循環装置、除細動装置については年に1回の定期点検及び必要な部品の交換、日常の保守管理を行っている。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有 ・ 無) ・ その他の改善のための方策の主な内容: 医療機器安全情報については多方面より情報の収集を行い、より重要な情報については 医療機器管理小委員会 医療安全管理対策委員会に報告、また、各病棟・外来、関係講座に「安全情報」として電子カルテ上に掲載することにより院内への周知をおこなっている。	

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	①・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 日本医療機能評価機構による評価(平成27年3月に受ける予定)	

(注)医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・①
・情報発信の方法、内容等の概要 クリニカルインディケータ（CI）を久留米大学病院のHPに掲載することで検討中。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	①・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 ・消化器病センター（消化器内科・消化器外科）、循環器病センター（心臓血管外科・心臓血管内科）、呼吸器病センター（呼吸器外科・呼吸器内科）を外来部門に設置している。 ・カンサーボードを開催し、がん治療の診療方針の検討等を行っている。	